

名主座における村落内身分の研究

蘭部寿樹

A Study of the Local Status of Villagers in the Myoshu-za

はじめに

- ①中国地方における中世前期の惣莊祭祀
- ②名主座の成立
- ③村落内身分としての名主頭役身分
- ④名主頭役身分の家格への変質
おわりに

【論文要旨】

名主座は、「名または名主を基礎単位として頭役を管み、複数の名または名主から構成され、萬次階梯的要素が希薄な、中国地方の宮座」と規定されてきた。本論文は、この名主座を村落内身分の観点から検討したものである。

まず中国地方の中世前期惣莊祭祀が、古老・住人身分集団による宮座祭祀であつたことを示した。この惣莊宮座祭祀が変質して、一四世紀初頭に名主座は形成した。その背景には、名の変質と山野・用水などの共同利益と名との関連がみられた。名主座成立の徵証とされる頭文は、宮座の「自主性・自治制」を示すものではなく、名を再編成した結果、社家などの主導により作成された文書であつた。

名主座は、村落内身分である名主頭役身分の者たちが連合して運営する宮座であった。また名主頭役身分の応分負担は、萬次成功身分の成功（直物負担）に相当するものであった。そのために、名主座には萬次階梯的な要素が発達しなかった。

一六世紀後期、中国地方の村落において家が普遍的に成立した。この家を基盤とする座外の村落内勢力と名主座との間に確執と妥協がみられた。その結果、近世において名主頭役身分は家格を示すものへと変質し、名主座は家格制維持の権威的な機構となつた。

最後に、名主頭役身分の成立時期、名主頭役身分の身分特權のありかた、神田没収の村落財政上の影響とその対応策、家格制の深化や変化のありかた、宮座「解体」後の実態、及び名主頭役身分の分布範囲などの課題を提示した。

キーワード 名主座 名主頭役身分 惣莊宮座 家格制 頭文